

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 祓川養魚場
(ユニット名)	グループホーム 湧水の里 B棟 ぼたん
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市祓川町5276
記入者名 (管理者)	記入者 西牧純子 (管理者) 中留 江里子
記入日	平成20年4月23日

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中のグループホームとして「地域と共に」を基本理念として運営推進会議などを通して、情報交換や交流を進めて地域の一人としての生活支援サービスを提供している。	過去4年6ヶ月の実績を生かして、今後も奢ることなく新しい知識も学びながら、利用者様に懇切丁寧な支援をしています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「明るく豊かな心と心のふれあい」を大切に、心を込めて日々のお世話をさせていただいている。利用者の笑顔の暮らしが毎日ある。その笑顔は職員の喜びでもある。	同上
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の来設の際や、地域の代表者である運営推進会議、グループホーム便りなどで、周知していただいている。「この年寄り達は、とても明るいね」と言われており理解を得ている。	同上
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所には、他のグループホームもあり、散歩の際にはお互いに寄ったり、寄らせてもらったり、地域の方々の物珍しげな立ち寄りも、気軽に受け入れて、湯茶のサービスもし日常的な付き合いがある。	同上
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域の住民として位置づけており、町内会へも入り、地域のまつりごとを大切に、参加したりし、地元の人々と交流に努めている。	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者の多い地域にあり、高齢者の生活を見てみぬ振りにはできない、極当たり前のように声をかけ、手を貸す、それが自然にできている。	同上
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	いつ、何時でも、見られている意識を持ち、自己に責任の持てる、介護サービスを心がけている。特に外部評価を良くする為のものではなく、日常的に懇切丁寧な介護サービスに取り組んでおり、常に自己評価は活かされている。その先にある外部評価良ければなお良い。	同上
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、事業所の応援団であり、事業所は地域の住民であり、事業所機能が、地域住民との賑わいでもある。利用者へのサービスの実際は、定期的に発行するホーム便りによる生活風景写真で見ていただき、意見も聞き、サービスの向上に活かしている。	同上
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村発行の保険証やなど、留守自宅へ届けられたりしない様、市町村への連絡をし、書類などの不備が無い様連携が取れ、スムーズなサービスの向上がある。	同上
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、本等から抜粋しプリントで学ぶ機会を作っている。	同上
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	わがグループホームでは、利用者への虐待は全く無い。職員は全員承知している。	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、管理者による重要事項説明があり、理解納得が得られている。	同上
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、認知症が重度にあり、意見、不満、苦情が明確に言えない。それらは係わる職員は充分理解している。強いて言えば不満は、自宅での暮らしが出来ない事のようなものであるが、外部者へ表わせる機会は難しい。	同上
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行や、個人的な暮らしや、近況報告は個々に必要時に文書で報告し、その控えも保存してある。緊急な場合は電話で話す。金銭管理は、家族の来設時に出納帳など見せ、確認印も取っている。	同上
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来設の際やに、苦情や不満、意見があれば遠慮無く申出てください様お願いしているが、その様子は無い。17年冬入りから20年冬明けまで、3冬に渡り利用者が風邪もひかずに過ごせたことを、家族は事の他喜ばれている。苦情承り姿勢は充分にある。	同上
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議があり、職員のもので意見や提案を聞いている。提言などもレポート提出をさせて、運営者が読みその反映が活かされている。	同上
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急な体調悪化があったりし、欠員の補充は柔軟に対応できている。外出サービスなどの計画時には、必要な職員の勤務増員ができており、利用者の安全と安心を支えている。	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員へ対しては入社時に、入社3年は離職しない旨の約束を交わしている。退職職員の補充で新しい職員が入るが、一人の職員の入れ替えで利用者の戸惑いはない。他の職員と顔馴染みが出来ており、自然に馴染んでいく。	同上
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	南日本新聞社主催の介護セミナー前期後期にわたり、研修参加が出来た。有給休暇での個人的な参加であったが休暇が適切に取れる取り組みがある。ちなみに、後期研修は、鹿児島女子短で富士山エツ子先生の「高齢者の為の食事作り」など、施設ですぐ役にたっている。	同上
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの職員との交流も大切にしている。日頃の悩み相談を受けたり、また相談したりし、勉強会などへも誘いあつて参加している。お互いの施設のサービスの向上に役立っている。	同上
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同志の飲食会の日を設けて、日頃の不平、不満のぶつけあいもある。改善できない不満もあるが、人に話すことでその不満が半減し、ストレスが回避できている。	同上
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月1回全職員を一同に集めて勉強会もある。職員が自己研鑽したレポート発表もあり、皆の士気の向上がある。	同上
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症のため、本人自身から相談を受けることは減多にない。訴えはあつた時、否定せず時間を取り、話を良く聞くことで、信頼を得ているように思える。	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護を他人に任せる家族には、初期には大変な不安をおもちである。十分な説明を丁寧なことで、その不安が軽減し、時立つ毎に家族の信頼がいただけている。		同上
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている	先ず最初の相談は病院受診が家族で出来ないことが殆どであり、その他のサービスで受診を介助している、その為の移動手段は無料でサービスとなっている。		同上
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用する ために、サービスをいきなり開始するのではなく、 職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染 めるよう家族等と相談しながら工夫している	一つの動作支援毎に説明しながら納得していただいている。いきなりと言うことはない。言葉使いも利用者が長年使い慣れた地域の言葉で、丁寧語を使い、場の雰囲気に馴染み作りを工夫している。		同上
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしなが ら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が悲しい思い出話をされ泣けば、共に泣き、嬉しい子供自慢の話をされれば共に喜び、昨日できなかった事が今日できれば誉めて喜び、職員の笑顔が利用者に伝染し、笑顔が絶えない関係ができています。		同上
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく 関係を築いている	興奮状態が強く職員で手に負えない時もあり、家族へ来設をお願いし、本人の落ち着きを取り戻す支援を家族と共に、支えて行ける関係ができています。		同上
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援している	期間的にホーム便りを発行し、毎日の生活状態を御知らせしている。ホーム便りで見ると笑顔の暮らしを家族は喜び、自宅で暮らしている際に見せなかった笑顔を見られてここでの安心のある暮らしを理解されている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで関係のあった友人や、親戚、家族までもすっかり忘れてしまわれている方々が多いが、まだ、認識できる方々は、家族や友人の面会を喜ばれており、近々の面会をお願いしたりしている。		同上
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同志で会話が弾み、笑顔が絶えない毎日があるがその楽しげな会話も、隣で聞いていると全くつじつまが合わないが、本人同志は楽しそうであり、静かに見守っている。無理に話の中に入っていくかのようにしている。		同上
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了は、入院で退居となった方々である。入院治療の甲斐なく亡くなられた方への、葬儀参列など、職員は自前で香典を準備し、残された家族とのつながりも大切にしている。		同上
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向は、自宅での家族との暮らしであり、把握は出来ても家族の都合もあり、本人本意の希望が、かなえてやれない。家族に代わり丁寧な介護が一生懸命行われている。		同上
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴を伺って、介護していく為の参考になっている。その人が一番輝いて居られた頃の思いだが、よみがえってくるようその頃の笑顔の暮らしを引き出せるよう、良いことばかりを話相手している。		同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人にあった心身状態を把握し、個性を大切にしている。出来ることを喜び、できないことをお助けしている。		同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回の職員会議をおこない、利用者の現状の情報皆で把握できている。その人にあった介護サービスができる様常に、話し合いできている。緊急においては、申し送りノート等で、全員が分かるようにしてある。必要に応じては家族も呼んだりして、計画の変更も柔軟に見直ししている。	同上
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時に介護度が重度であり、食生活が整い介護度も軽くなられた方、介護度軽かったが、入居が長くなり、老衰も進んで来られた方、あるが、その都度変化に応じた介護計画を話し合っている。	同上
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録で残す事の大切さは、皆認識できており、その記録は個々にされている。読み合う事で情報の共有がある。	同上
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所には、大きなバスがあり、1年に1度一日旅行が全員一緒にできたり、そうめん流しの観光施設もあり、季節を感じていただけるよう、その支援は実に多機能である。	同上
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会長、民生委員、消防団なども、気軽に立ち寄りがある。近くの小中学校生も小さな行事に飛び入り参加あり利用者が、珍客を喜ばれている。	同上
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居室の空き具合など、紹介があれば、他のサービス事業者へつないだりしている。	同上



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護度が増し、他のサービス移行が発生し、家族が特養などへ、申し込みに行かれた時、受付態度に憤慨されて悲しみの訴えがあった。地域包括支援センターに、報告し、介護保険利用者の権利擁護をお願いした。	同上
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医への受診介助は基本的には、家族であるが家族は、それぞれ都合があり、受診と薬もらい受け介助をその他のサービスで行っている。重篤な身体変化においては、家族も加わって受診を介助し、適切な医療を支援できている。	同上
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近くの病院へ、物忘れ外来があり、予約をとり、受診を介助している。認知症治療を受けさせている。	同上
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	係り付け医の看護師に気軽に相談ができて、助けてもらっている。	同上
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は、著しい精神状態に陥り、専門医の治療を要し入院となられた方があったが、そのまま家族の意向もあり、退居となった。他は、ここ3冬にかけて風邪も引かれず、入院もない。	同上
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居歴が長く、持病の治療は定期的受診で安定にあるが年の重なりで、老衰状態があり、重度かしてきた方があり、家族とも話し合い次のサービス移行を考えてきたがなかなかその受入先も無い。家族も在宅での介護はできない。終末期の介護の方針は共有できている。	同上
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームは生活介護であり、概ね身近の自立ができており、共同生活を送ることに支障が無いこと。であるが、入居歴も長くなり、年を重ね老衰状態に陥った方がいるも、今後の検討や準備は充分に行われているものの、その先の、身体介護サービスの受入先がない。	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームからの住み替えは、大概、病院への入院であるが、その住み替えのダメージを本人は理解できない。家族との話し合いは充分にできている。		同上
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人個人の特性に合わせた介護は丁寧にできており、入浴も一人ずつ、例えば失禁での着衣汚し時の更衣介助も本人の部屋でドアを閉めてプライバシー保護は大切にしている。記録紙も、個人個人に、記録されて、職員も個人の、秘守義務のある事を認識している。		同上
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なかなか自己決定が出来られない、分かりやすい様に説明はするが、語りながら忘れていかれている。表情などで察しし、明るく豊かな暮らしを支援している。		同上
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など大まかな決まりはあるが、朝起きの遅い方食べ方の遅い方、個人を大切にその人のペース合わせた支援はできている。入浴についても、一番風呂の好きなには、一番風呂を支援、希望に添わせている。		同上
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容とも感心のある方がなかなか居ない。スタッフが実状に合わせて、髪染めを介助したり、ヘアカットしている。服なども綺麗に洗濯し清潔感のある物を常に着用させている。本人の望む店の申し出は無い。		同上
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜など自家菜園で栽培し、季節の物を、取りたて新鮮な物を使って調理できている。種まきから収穫までの行程が楽しめて、採れた野菜のした拵えもしていただき、皆の難儀が、食の楽しみを誘っている。新鮮野菜でか？3冬に渡って風邪も引かない健康な毎日がある。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	酒、タバコの望みの訴えはない、飲み物はやはり 日本茶が好きで、おやつは、昔ながらの芋類を好 まれる、焼いたり、ふかしたり、揚げたり、団子 にしたり、喜んでもらっている。		同上
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ち よく排泄できるよう支援している	尿、便とも、失禁者が多く、オムツまではいかな いが紙パンツ併用で、トイレでの排泄を介助してい る。		同上
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	一番風呂の好きな方は一番風呂を、楽しませ、風 呂嫌いな方には、言葉わるいが、だまし、だまし の声かけで週3回以上の入浴を介助している。失 禁などで体を汚されていれば、その都度入浴を介 助し、必要なタイミングあわせが支援できてい る。		同上
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支 援している	夜間譫妄があり、なかなか寝ない人も居るが、良 く休まれる方が、大半であり、就寝中の無理な声 かけはしない巡視はするが、静かに呼吸などの確 かめ程度にし、安眠を支援できている。		同上
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている	踊り好きの方と、歌う事が好きな方あり、その役 割が周りを楽しませて毎日が賑やかである。皆さ ん外出も好きで季節に応じた外出サービスも多く 取り入れてあり、気晴らしの支援となっている。		同上
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解 しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支援している	幸いか？不幸か？自分で使いたいお金を言われる 方が居ない。鹿児島銀行が、自分のものであると 言う妄想はお持ちの方が居るが、使いたい希望の 訴えは無いでいる。		同上


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ほぼ毎日、近距離の散歩や、玄関先での外気浴し、周りの山の緑観察や小鳥のさえずりを聞いたり、ドライブで遠距離の景色も楽しんでいただき季節の変わり行きを見る戸外支援ができています。		同上
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出では、月1回は街のレストラン等での昼食を楽しませている。年1回の一日旅行も家族へ参加を呼びかけているが、家族も多忙にあり、参加は無い。利用者を充分に楽しませる機会作りは、常にある。		同上
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆も頼まれれば気軽に引き受けている。遠方より家族の様子伺いの電話があれば、とにかく本人の声を聞いてもらうよう電話を取り次いでいる。		同上
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族も、昔の友人も遊びに気軽においでいただいているが、本人はもうお忘れ状態の方が大半である。訪問くださった方々には、簡単なお茶振る舞いをし、近々の生活状態を御知らせし、居心地よく過ごしていただいている。迎えるスタッフの笑顔もサービスの一つと考えている。		同上
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束などただの一度もない。職員は皆理解している。		同上
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は、網戸にしてある。鍵はしない。夜間は安全の為内鍵はしている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目は、利用者を向き他の仕事もしている。台所仕事をしながらも利用者の動きが確かめられて安全が守られる体制にある。夜間は個室を見廻すが、就寝中は入り口ドアを閉めて個室で過ごすプライバシーの保護がある。		同上
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤などの保管、薬の保管は適切に管理している。		同上
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災発生時の非難訓練もある。抑制禁止の施設内での自由な動きで転倒事故の危険は常にあり、見守りを大切にしている。誤薬防止はスタッフが薬の管理をし必要時に必要量を渡している。		同上
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、家族とも連絡が確実に取れる様、自宅電話だけでなく、携帯電話番号も聞いて速やかな連絡がとれている。消防署に来ていただき、応急手当で訓練も受けている。		同上
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団長が近くに住んで居られ、緊急時の呼び出しは、「何時でも応じる」と約束いただいている。スタッフも近隣に住む者が多く、2,3分で駆けつけられて、昼夜を問わず必要な非難介助の体制はある。		同上
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	年齢が進むに連れて、持病の方は安定してきてはいるが老人性衰弱の進行はある。家族とも常にそのリスクを話し合っている。		同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている	毎日バイタルサインをチェックして、その日の健康管 理に役立てている。顔色や動き周りにも気を付け て異変の早期発見に努めている。	同上
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が何らかの持病があり、内服されている。 利用者には必要量をその都度配薬。薬局から の薬の説明書の添付もあり、その添付書を見て、 目的や副作用、用法や容量を理解している。	同上
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる	特に便秘に苦しむ利用者は居ないが、服薬の副作 用で便秘になりがちの方の為には、ドクターより、緩 下剤などの処方がある。食べ物も新鮮な野菜を多 く取り入れた食事を提供し、排便を促す工夫を食 材からも取り組んでいる	同上
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る	朝と昼の食後は、お茶での口ゆすぎ、夕食後は必 ず歯磨きを誘導し、適切な歯磨きが出来様付き 添い、できない方へは、義歯外しから、磨きまで 介助し、口の中はうがいを促している。	同上
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	「高齢者の食事作り」と言う、鹿児島女子短大の 福司山エツ子先生の研修に年に1回参加してい る。そこで習った事を持ち帰り、職員へ伝え、栄 養のバランスのとれた食事作りの参考にしてい る。3食と2度のお茶タイムがあり、水分の摂取 も十分に支援できている。	同上
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M RSA、ノロウイルス等）	感染予防対策は全てが手洗いから始まることを認 識している。寝具の日光消毒に心がけ、台所の 清潔維持、居室の畳まで天気の良い日に日光消毒 を行っている。	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食食事作りの担当者を一人決めて、台所の衛生管理は徹底している。一人決めることで責任感が生まれている。自家菜園で採れたて新鮮野菜を毎食使うことで、食材の安全が確保できている。		同上
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口は広くあり、広い出入り口の玄関のテラスを利用し、たまにはそこでお茶をのんだり、近隣の人達の通りがかりには、お茶を一緒にすすめたり、玄関の広さを工夫し使っている。		同上
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場日光が、共用空間の和室畳部屋に差込み、そこで寒風に逢わず、日光浴が楽しめている。廊下、居間、浴室トイレも掃除が行き届き、居心地良い空間作りとなっている。		同上
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で丸テーブルで食事する人、お茶飲む人、ソファで ゆっくりくつろぐ人、好きな居場所がそれぞれある。気の合った者同志があちこちで談笑しながら過ごされている。		同上
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室はその人のプライバシーを守る部屋であり遠方からの面会の家族あれば宿泊も可能にしている。使い慣れた、茶碗類でも、また、仏壇や鏡台などの持ち込みも家族へ話はしてある。寝具や衣類のみになっている		同上
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	年間をとおして暑さ知らず、寒さ知らずの空調が管理され、利用者の状況に合わせて、冬場は廊下を一晚中暖房し、トイレ起床時の急な冷えが起きない様配慮している。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりなく設置してあり、ふらつき歩行者の安全が保てている。居室で排泄の方もあり、ポータブルトイレがある、排泄物はその都度廃棄と水洗いを介助し手を貸さず廊下の移動が出来、手を貸さずにトイレで排泄出来るよう自立を促す環境作りもある。	○	同上
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力？認知症軽度の方々も話しながら忘れていかれている。屋内で暮らせる部分で、食事の手荒い、食後の歯磨き、ぐらいは声かけすれば自立できている方もある。分かってももらえない方には手を添え足を添え、混乱を防ぐ丁寧な介護を行っている。		同上
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには季節の花が咲き、玄関では小鳥がさえずり、外気浴時に利用者は楽しんで居られる。		同上

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目

項目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム湧水の里は、湧き水豊かな祓川町にあり、居室の窓からは高隈山の大自然が眼前に広がり、空気もきれいで緑に囲まれた場所にある。市街地にも近く各種病院にも近い為、家族の評判も良い。私達は、自家菜園が3アールほど隣接地にあり、1年間を通して季節の野菜を栽培し、旬の新鮮な沢山の種類の野菜が食卓にあがります。「料理は目でも食べる」を合い言葉に新鮮な緑がそのままの色で食していただいております。建物の周りには、利用者と一緒に山からつわの苗を摂ってき来て植えたものが季節を感じさせる食材ともなっています。「食」は人を良くすると書かれているが、正に新鮮な採れたて食材が利用者の健康を維持し、ここ3冬(17年冬の入りから20年冬の明けまで)の期間を風邪もひかずにお過ごしいただいた事が自慢です。事業所には大きなバスもあり、年1回の日帰り旅行も支援できたり、そうめん流し施設もあり、季節を楽しむ支援がふんだんに出来ています。スタッフも皆利用者に笑顔で明るく、楽しみながら接し、その笑顔が利用者にも伝染し、一日中笑い声が絶えません。我がグループホームは、利用者を個人として尊重し、安心と尊厳のある生活を支援しています。